

三浦半島植物雑記 (その3)

大谷 茂*

Miscellaneous notes on plants in Miura peninsula, Japan (3)

Shigeru OHTANI*

(with 2 plates)

この報告は本誌前号 (1961) にひきつづいての発表である。当地区に新たに発見されたものと、新産地として追加するものとをわけて報告することにした。なかには分布上非常に珍しいものもある。すべてが三浦半島植物誌 (1950) に増補するものである。また項目中 * 印のあるものは神奈川県植物誌 (1958) に追加すべきもので、** 印は産地の追加を示すものである。この報告は採取標本ならびに採取時の観察実験にもとづいたもので、すべての標本は当館に保管してある。この報告に際して絶えず助言をたまわった鈴木重隆氏ならびに資料を報告された松山庫三氏および標本を提供された佐野純雄、斉藤照一、間瀬美保子、田中すき子、岩城潔、赤星直忠、西山清治の諸氏にたいして深く感謝の意を表する。各項目の番号は前号につづくものである。

A. この項にあげたものは三浦半島に新たに発見されたものである。

50. ** さくらいかぐま (Fig. 1)

葉柄の基部に褐色披針形の鱗片が残るが中軸や羽軸などどこにも鱗片がない。ミサキカグマは葉柄、葉軸、羽軸に披針形の褐色～黒褐色鱗片がある。葉身は五角状の広卵形で最下羽片の柄が長い。この採取品では 2~3.2 cm のものが多かった。ミサキカグマの最下羽片の柄は短いものである。ソーラスはミサキカグマよりも中間生である。本種は常緑性だがミサキカグマは夏緑性である。

産地 横須賀市、田浦

採集者 大谷 茂、斉藤照一

本種は斉藤氏が田浦の奥地で昭和 35 年 7 月 25 日に採取した標本で同氏が学名不明のまま送られたものを考定したもので著者も確認しているものである。三浦では初めての発見であり、本県産地としては古くから横浜市港北区の白根が知られ、近くは足柄上郡道了山、足柄下郡橋町に報告されているものである。最近昭和 37 年 1 月 4 日に西山清治氏が足柄上郡中井町まないた原の谷において採取持参されたものもサクライカグマである。

51. えぞやまかもじぐさ

本種の花穂はまばらで貧弱なものである。稈の節が隆起し、この隆起部に短毛が密生している。また隆起した節だけでなしに他の部分にも短毛がある。小穂に短い柄がある。

産地 横須賀市、馬堀

採集者 大谷 茂

本種は著者が昭和 36 年 7 月 7 日馬堀にある本館附属自然教育園内植物調査のときに採取したものである。小穂の短柄、節部隆起しそこに短毛密生している点でカモジグサ属 *Agropyron* と区

* Yokosuka City Museum, Yokosuka Japan.

別し、ヤマカモジグサ *Brachypodium miserum* (THUNB.) Koidz. とされていた。節部だけでなく、その他の部にも短毛のあるものをエゾヤマカモジグサ *B. sylvaticum* とし、ヤマカモジグサはこの変種 var. *miserrum* (THUNB.) Koidz. と変った。大井先生のいわれるように、この両者は区別する必要もないとおもうが、この両型が上記のところにみられるのである。

52.** ほそむぎ

稈は無毛。小穂は 5~6 花。頂生の小穂は 2 穎、軸側の小穂は 1 穎。穎は小穂の長さよりも短く、縁辺に短歯があり、芒の発生を見ない。

産地 横須賀市、函崎半島

採集者 大谷 茂

本種は著者が米軍基地の許可を得て上記のところを調査中昭和 36 年 5 月 28 日採取したもので大きな群落をつくっていた。また昭和 36 年 8 月 7 日の鎌倉飯島海岸産の標本もある。欧洲原産の帰化植物で明治年代の渡来といわれる。

53. とげむぎ (吉野善介氏), ほうむぎ (松山庫三氏)

稈は強直。葉は小形で短い。小穂は穎よりわずかに長い。

産地 三浦市、南下浦、八景原海岸

採集者 大谷 茂

本種は昭和 36 年 6 月 4 日海岸植物調査のとき上記のところで採取したものである。欧洲原産の帰化植物で、久内清孝先生が昭和 6 年 (1931) 横浜で採取されたのが始めであることは神奈川県植物誌に報告した通りである。

54. おおくさきび

葉舌は列毛となる。花序は大きな円錐状でよく分岐した枝は開出して細長く、小穂は疎につき柄がある。第一穎は三角形で小さく穂の 1/4 くらいである。

産地 横須賀市、衣笠

採集者 大谷 茂

本種は著者が昭和 35 年 9 月 14 日に上記のところで採取したもので、高さ 1 m 位の大形の一年草である。横須賀市、久里浜の丸畑にも一面群生しているが乾燥地の故か小形となり、高さ 40~50cm となっている。

55. やりくさよし, カナリーくさよし

稈頭に多数の小穂が屋根瓦状にかさなって円錐状穂果様の穂をつけ独特の形をしている。

産地 鎌倉市、飯島海岸

採集者 間瀬美保子

本種は昭和 36 年 6 月 11 日に上記のところで間瀬氏の採取されたもので、地中海沿岸産の帰化植物である。大井博士は福岡市外平尾で採集されたヒメカナリークサヨシ *Phalaris minor* Retz. の和名を与えられたものも地中海沿岸が原産であるが、まだ本種との比較をしたことがない。本県植物誌には藤沢や観音崎などに稀に野生化していると報じているものだが、その後観音崎附近などの海岸地区でみていない。

56.** せいばんもろこし

穂は紫褐色で、分枝に毛がある。穂の長さは本品では小さい方で 30 cm。穎の毛は落ち易い。外フにも内フにも縁毛がある。

産地 横須賀市、久里浜

採集者 田中すき子

本種は昭和 28 年 10 月 31 日に田中氏が上記のところで採取したもので、同氏の標本を同定中

にみいだしたのである。同氏は採集当時はサイトウガヤと見あやまっていたようである。地中海沿岸の原産である。始め浅野貞夫氏が千葉県東条村で採取（1943）され、その後千葉の三里塚や横浜に採集の報告があるものである。

57.** まこも、かつみぐさ

茎は太く円柱形で中実である。花房は大形で長円錐形をなし、枝は半輪生で密に分枝し斜上している。枝の基部のわきは軟毛叢がある。小穂は単性で、花序の上の方は雌性、下のものは雄性である。雄性小穂は先がとがるが芒とならない。雄しべ6、葯は線形で赤紫色。雌性小穂は線形、淡黄緑色で長芒がある。

産地 横須賀市、久里浜

採集者 大谷 茂

本種は著者が昭和36年7月9日に上記のところで採取したものである。沼地に群落をつくる大形の多年草で、地中に短い根茎と多肉の匍枝がある。雌雄小穂とも小梗の先に関節があって非常に脱落し易いので標本にするとほとんど小穂は落ちてしまうのである。盆行事近くなると、いつのまにか土地の人にかり取られてしまうが、三浦半島植物誌に記録がないとは思議である。支那のマコモは食用マコモといわれ、俗称支那竹としてラーメンの中に入れてあるものである。四国では高知県であったか、この食用マコモを一時栽培したことがあるらしく同地附近には逸出したものが見られるのではなからうか。

58.** じゅずすげ、ひろはのやわらすげ

茎のもとに紫褐色の鞘状葉がある。雄花穂は線形で頂生し、その下に2~3の雌花穂をつける。苞は雌花穂より長い。雌花穂は狭い円柱形で細い柄の部分は葉鞘に包まれている。花は緑色だが乾けば暗色にかわる。

産地 横須賀市、武山

採集者 田中すき子

本種は昭和29年4月29日上記のところで田中氏の採取したものを考定したのである。低山地にはえる多年草で叢生するが、地下茎はない。全体が柔軟の感じがするスゲである。

59.* せいとかはりい

穂は卵形―広卵形で長さは幅の1.5倍くらいである。基部に近いところをもっとも幅が広い。

産地 横須賀市、久里浜

採集者 田中すき子

本種は昭和29年5月8日上記のところで田中氏が採取されオオハリイとしていたものであるが、上記の点からセイタカハリイである。三浦半島植物誌にはハリイだけ記録しているが、当時はすべてハリイでかたづけしていたのであろうか。神奈川県植物誌にも未報告のものである。

60. ながぼてんつき、おおてんつき

小穂は黄褐色で長さは本採集品では10mmのものが多かった。瘦果は黄褐色、両凸形稍扁平な倒卵円形で、中央に小形の網目紋が明かに見える。

産地 三浦市、引橋

採集者 岩城 潔

本種は岩城氏が昭和35年9月11日に上記のところで採取したものを考定したのである。テンツキに近縁のものである。稈は本標本では非常に高く70~130cmある。花序は分岐して密に小穂をつけている。苞は葉状で長短不同だが花序よりずっと長く本種では28cmに達するものがあった。

61. えぞうきやがら, こうきやがら**

鱗片の短芒は反曲していない。柱頭は2岐する。瘦果は扁平, 広倒卵形で面はやや凹入してレンズ形である。

産地 三浦市, 大乘 (おおのり)

採集者 大谷 茂

本種は著者が昭和36年6月4日に上記のところで採取したものである。鎌倉の飯島海岸で間瀬美保子氏が昭和36年5月28日に採取した標本がある。

62. かきらん (Fig. 2)**

茎の下部は紫色をしているが, その他のところは緑色で無毛である。葉は卵状披針形で脈が多少隆起するためいじりやすい。花はあざやかな橙褐色でやや鐘形で, 花弁は鈍頭, 唇弁は淡紫色で側裂片は耳状に突出している。苞は葉状だが花より短い。

産地 横須賀市, 久里浜

採集者 大谷 茂

本種は著者が昭和36年6月14日に上記の旧千駄ヶ崎トンネル上の海に面したススキ草原の斜面に散在しているものを採取したものである。赤星直忠氏の案内で上記のわずか20mぐらいの海岸台地に本種を発見したときは不思議に考えられた。本県内でも箱根や丹沢の山地に自生するものが, どうしてこんな海岸のススキ荒原に広範囲に存在するか。分布上注目すべきものである。

63.* はくさんはたざお, つるたがらし (牧野) (Fig. 8)

葉の基部はせまくなって柄となる。根葉は頭大羽状に分裂して荏菹葉状をなしている。茎葉は倒披針形から狭披針形, 倒卵形で少数の突出した歯牙がある。葉の先は鈍頭のものも鋭頭のものもある。花序は次第にいくらか伸長する。花は白色である。

産地 横須賀市, 阿部倉

採集者 大谷 茂

本種は著者が昭和36年5月3日に大楠山麓の上記のところで採取したものである。茎は非常に細くて弱々しく倒れやすく広く匍まっているようにみられる。本種はまだ県内にその報告がないもので分布上珍しい部類に属するものである。

64. あこうぐんばい

葉はやや広い披針形で欠刻があるが, 葉脚は茎を抱かない。上部に枝を出してその先に散房状に細かい小さな白花をつける。

産地 三浦市, 長浜

採集者 大谷 茂

本種は著者が昭和35年7月12日に上記の海岸で採取したもので, *Lepidium* sp. とメモしておいたものである。その後になって久内先生および浅井康宏氏が考定の結果, 欧州原産の本種であることがわかった。

65. わさび**

根茎は栽培品ほどは太くないが, やや肥厚してそこに葉の落ちたあとがある。根出葉は大形心臟形で質はうすく, 無毛で長い柄をもつ。葉の縁は葉脈の先が小さい歯となっている。またゆるい波状を呈している。茎葉は小さい。果実は長角果で先に花柱が残る。

産地 横須賀市, 大楠山麓馬の脊谷

採集者 大谷 茂

本種は著者が昭和36年5月3日上記のところで開花期のものを採取したものである。昭和36年5月5日に赤星直忠氏が同じ大楠山つづきの葉山町木古庭の正吟 (しょうぎん) で採取された

ものも本種である。大楠山麓の谷とか湧水地に散見される本種がどうして今日まで報告されていなかったか不思議である。

66.** ゆりわさび

多年草。地下茎は細い。根出葉は叢生して長柄がある。葉は腎心形または卵心形で縁は大きな鈍歯牙があり、質はうすく無毛である。茎葉は小さく、長柄があり、心形または卵形で大鈍歯牙縁である。花房に苞がある。花は白色。

産地 鎌倉市、散在ヶ池

採集者 大谷 茂

本種は著者が昭和 36 年 3 月 28 日に今泉から散在ヶ池（鎌倉湖といって観光宣伝している）にいたる途中で採取した開花期のものである。昭和 36 年 12 月 7 日付の松山庫三氏からの報告によると本種を横須賀市の田浦で採取されたということである。

67.** おのまんねんぐさ

花枝の葉は 3 個輪生または時に対生している。葉は線形から狭い長楕円形で基部がほとんどせばまらない、また先端が扁平にならないものである。

産地 横須賀市、衣笠

採集者 田中すき子

本種は昭和 29 年 5 月 29 日に田中氏が上記のところで採取したものを著者が考定したのである。本種は山地の岩などにも生ずるがまた人家の石垣等によく栽培されることがあるから、衣笠あたりではあるいは逸出したものであるかもしれない。ツルマンネングサに似て葉は線形で細長いものである。漢名、仏甲草。

68.* おおずみ (Fig. 7)

葉は長枝（萌芽枝）のものも、ほとんど分裂していない。また花枝のものはほとんど鋸歯を欠いている。花はやや長い小梗をもつ。花柱は 4~5。

産地 横須賀市、馬堀

採集者 大谷 茂

本種は著者が昭和 36 年 4 月 21 日に開花期のものを発見し、同年 6 月 2 日に果実時のものも採取した。馬堀の俗称水道みちという沢にあったもので少数の人の通う細い山道が通っているところである。本種は稀産の種類でもあり、分布上珍しいもので、昭和 36 年 6 月 2 日若い果実のつく相当大きい株を本館附属自然教育園に移植した。

69.** こしながわはぎ

花は黄色でシナガワハギよりもはるかに小さいものである。

産地 三浦市南下浦町、毘沙門海岸

採集者 大谷 茂

本種は著者が昭和 36 年 6 月 4 日に上記のところで採取したものである。欧亜大陸原産の帰化植物である。本種を佐野純雄氏が昭和 26 年 (1951) 7 月に横須賀市田浦で採取している。また同氏はシロバナシナガワハギ *Melilotus alba* DESROUSSEAUX を昭和 27 年 7 月に、シナガワハギ *M. suaveolens* LEDEBOUR を昭和 26 年 7 月に何れも田浦で採取した標本が本館にある。

70.* はいあおい

多年生草本で全体に毛がある。茎は地表を横にはう。葉は互生で長い柄をもち腎臓状円形で、縁は浅く 5~7 片にきれこみ鈍鋸歯がある。葉腋に白色のめだたない小花が集まってつく。

産地 横須賀市、久里浜

採集者 大谷 茂

本種は欧州原産の帰化植物で、あまりその報告をきかないが、著者は昭和 34 年 10 月 27 日に上記久里浜の丸畑（まるばたけ）、本館附近のところで採取したもので以来毎年確認しているものである。本種は昭和 32 年頃から赤星直忠氏の目にとまっていたものであるが著者の考定したのは上記の期日であった。久里浜においては冬期も地上部は枯れるがロゼットは枯れない。

71. おらんだみつば (Celery)

茎は無毛で緑色をなし、稜条があって分枝している。葉も無毛で 2~3 対の小葉をもつ羽状複葉をなす。小形の複散形花序。緑白色の 5 花弁 5 雄蕊の細花をつける。

産 地 横須賀市、坂本

採集者 田中すき子

本種は田中氏の標本を整理中に見出したもので上記のところで昭和 29 年 6 月 15 日に採取したものである。欧州原産の本種を昔はキョマサニンジンといわれていたので本邦へは朝鮮から入ってきたものであろう。その栽培は今では房州、長野、北海道などに盛んであるが、明治の中期に横浜附近で始まったもののようである。ひろく食用にされるようになったのはそんなに古いことではなく昭和になってのことである。住宅地附近にはよく逃げ出しているので、上記のところも逸出したものである。

72.** はなうど (Fig. 6)

果実は倒卵形で扁平、肋間にある油管は棍棒状で分果の基部にまで達していない。花は白色で花序の外がわのものが他より大きく、また花弁は不同大で外側のものがもっとも大きくて 2 裂している。

産 地 鎌倉市、大町塔の辻

採集者 間瀬美保子

本種は間瀬氏が昭和 36 年 5 月 13 日に上記のところで採取したものである。同氏の標品はもっとも小さいものを採取したようだが元来大形のものである。本種は匍枝をだすのが特徴で、この種に類縁の他のものにみざるところである。横須賀市内でも田浦、長浦、安針塚附近によく繁茂し、早春開花時は実に見事である。東京芝の増上寺境内にあったというのでゾウジョウジビヤクシの名がある。

73. つくばきんもんそう

花冠の上唇は短く半円形のものである。

産 地 横須賀市、馬堀

採集者 大谷 茂

本種は昭和 36 年 4 月 21 日著者が上記の本館附属自然教育園において採取せるものである。ニシキゴロモの変種で初山泰一氏は久里浜で 1930 年に採取された報告があるが三浦半島植物誌にはあがっていない。田中すき子氏の採取標本中、横須賀市内の小原台（昭和 29. 4. 16）、衣笠（昭和 29. 5. 29）のものはニシキゴロモとしているが何れもツクバキンモンソウである。

74.** きばなあきぎり

花は黄色。花筒のもとの方に環状に平滑鈍頭の毛がある。

産 地 葉山、二子谷

採集者 西山清治

本種は昭和 36 年 10 月 12 日に上記のところで西山氏と石渡宏氏が採取したものである。三浦半島植物誌には本種の学名は記録されているが和名がアキギリとなっている。アキギリ *Salvia glabrescens* MAKINO は紅紫色の花であるし、また花筒内部の毛のつき方も形も異っているものである。著者は古くからこの地区に本種を見かけていたが開花期に出あわず考定もできなかったとこ

ろ今度確認できたわけである。キバナアキギリもアキギリも同一にあつかう考え方もあるが、わけた方がよいとおもう。本館には箱根塔ノ沢産の赤星直忠氏の昭和 35 年 10 月 13 日の採取標本もある。

75. やまたつなみそう

葉は卵状三角形をなして両面に粗毛がある。種子は赤褐色で円錐状の凸起が密生している。

産地 横須賀市, 久里浜

採集者 田中すき子

昭和 29 年 6 月 12 日上記のところで採取した田中氏の標本は同氏がナツノタムラソウとして本館に送られたものであるが、考定の結果は本種であって葉の形や花の部分が異なるものである。ナツノタムラソウは *Salvia* 属である。

76. おおかわぢしゃ

小花柄が横にひろがらずに斜上して曲っているのが特徴である。葉縁の鋸歯は低く小さい。全体大形である。

産地 葉山町, 芝崎

採集者 間瀬美保子

本種は欧州, シベリア, 支那などに分布するもので, 上記のところでは群生して野生状態となって帰化している。この標本は間瀬氏が芝崎で昭和 35 年 12 月 18 日に採取したものであるが葉山堀の内辺の溝から海岸に近い芝崎あたりに広く分布している。同氏は終戦直後同じ葉山の上記のところに近い真名瀬の溝に一面に開花せるをみてカワヂシャと考えていたらしいが, 各部全体が大形であるし, 花柄の様子や標本でも匍枝があるので本種にまちがいはない。

77.** つるありどうし (Fig. 3~4)

常緑の多年草。茎は匍い節から根をだす。葉は対生卵形で質が厚く深緑色をしていて毛はない。小形の葉間托葉がある。花は茎の先に 2 個ずつ接してつき, 白色。花柱の長くつき出るものと, 雄ずいの長くつきでるものと 2 型が株によりみられる。本標本は後者の型のものである。液果は球形で赤熟する。

産地 横須賀市, 馬堀

採集者 大谷 茂

本種は著者が昭和 36 年 6 月 2 日上記の本館附属自然教育園内広葉常緑樹林下に大群生しているものを採取せるものである。もともと本県においては大山, 箱根, 丹沢のような山地の林下にみるもので, 鎌倉に記録があるがどの辺か著者は確認しておらず, 上記馬堀の沿海地にしかも群生しているということは分布上からも珍しいことがらである。上記のところではまだ果実を見たことがない。おそらく雄しべのつき出る型ばかりの株であろう, そうなると鳥によって運ばれたのであろうか。

B. この項にあげたものは新産地として追加さるべきものである。

78. こひろははなやすり

産地 鎌倉市扇ヶ谷, 海蔵寺

採集者 間瀬美保子

採集日 昭和 34 年 12 月 6 日

本種を寺島浩一氏は同市名越の妙法寺において昭和 36 年 12 月 17 日に採取している。

79. おおひめわらび

葉身はうすい。羽片は羽深裂, 裂片はやや密に有翼の小軸上にならび波状歯から浅裂までである。

鱗片は落ちやすいが葉柄にはまばらに残る，中軸にはほとんど残らない。小羽片の中肋の表面と羽軸に微毛がのこる。裂片の側脈は単条。

産地 横須賀市，田浦

採集者 斎藤照一

斎藤氏の同定してない標本中に昭和 35 年 7 月 25 日に田浦の奥地で採取された本種があった。三浦半島では古くから木古庭の報告があり，また鎌倉での報告もあったが田浦は新産地として登場してきたわけである。

80. あらげみぞしだ

ミゾシダの有毛状態は変異のかなり多いものだが，本種は単なるミゾシダの多毛品ではない。葉の裏面特に子葉群のつく側脈上およびその附近に長針状（長さ 1.5 mm）の毛が多いのが特徴である。

産地 横須賀市，田浦

採集者 斎藤照一

昭和 35 年 7 月 25 日に上記のところで採取された斎藤氏の標本は本種であって，本県の羊歯としては珍しいものである。一昨年倉田先生が神武寺で採取されたことはすでに報告済みで，この田浦の地は本県で第二の産地となるわけである。本種は千葉の清澄山産のものをタイプとして伊藤洋先生が命名発表（1935）されたものである。

81. そばかずら

茎は細くてツル状。葉は有柄で互生，やじり状心形で鋭尖頭。花は緑色で疎なる穂状をなし，階段状につく。花卉はない。がくは深く 5 裂し花後増大して宿存し果実を包む。雄しべ 8，雌しべ 1，花柱 3。花被片は果時にも翼はない。そう果は黒色で 3 稜形。

産地 鎌倉市，大町

採集者 間瀬美保子

本種は欧州，西部アジア原産の一年生草本で本邦に帰化している。昭和 35 年 9 月 25 日に上記の間瀬氏の自宅（大町 39 番地）附近で採取されたものである。よく人家附近にみかけるもので，この種子が鳥によって運ばれるのではなかろうか。

82.** はいびゆ（中井博士）

茎は地上に水平にひろがる。茎には毛が散布している。葉は有柄，卵状，鈍頭で先端に短く突出した針がある。また葉の下面脈上に毛を有す。小花が団塊状に集まって茎や枝端に穂状につく。

産地 横須賀市，久里浜

採集者 大谷 茂

本種は昭和 36 年 6 月 14 日に上記久里浜の大浜附近で採取したものである。欧州原産の帰化植物で大正 10 年に中井猛之進博士により記録されたものである。三浦半島植物誌に記録はあるが産地がないのでここにあげる。

83. ぐんばいひるがお

葉は凹頭円形で互生している。葉柄は長く多くは紅色をおびている。

産地 横須賀市，長井荒崎海岸

採集者 間瀬美保子

本種は昭和 35 年 11 月 6 日に間瀬氏が上記のところで採取したものであるが，極めて貧弱のものである。元来が暖地の海岸砂上に生じるもので海流によって運ばれたものが三浦半島にも時に発芽する。しかし原地では多年草でありながら三浦地区では越冬しないようだ。また開花をみたことがない。

84. すなびきそう, はまむらさき

本標品では葉はへら形というよりは、むしろシャモジ形といったほうがよいくらい広い型のもので、長さ 7.5~9.9 cm, 幅 4.1~5.0 cm の倒卵状で、基部は細まり、先は小凹頭から円形、なかには切形状のものもある。

産地 三浦市, 南下浦毘沙門

採集者 大谷 茂

本種は著者が昭和 36 年 6 月 4 日に上記の海岸で採取したものである。*Messerschmidia sibirica* var. *latifolia* (DC.) HARA は、このようなものをさしたのであろう。葉が広く大きいばかりでなく、茎も普通のものより太いものである。三浦半島植物誌に記録はあるが広葉品種としてここにあげておく。

引用文献

- 原 寛 1948: 日本種子植物集覧 I, pp. 178~179, 東京.
 久内清孝 1947: セイパンモロコシの帰化, 植物研究雑誌, 21, p. 142.
 久内清孝 1950: 帰化植物, pp. 80~81, 91, 東京.
 倉田 悟 1958: シダ類ノート (16), 東北の植物, 7 (2), p. 39.
 神奈川県教育委員会 1958: 神奈川県植物誌, pp. 11, 39, 41, 45, 109, 129, 156, 182, 186.
 牧野富太郎 1961: 牧野新日本植物図鑑, p. 386, 東京.
 大井次三郎 1956: 日本植物誌, p. 665, 東京.

Résumé

This report shows additional new facts learned from herbarium specimens and observations in the field during 1961~1962, that should be added to "Florula Miurensis (1950)" by Masujima and Ishiwata, and also to "Florula Kanagawensis (1958)". This latter is indicated by* (new plants added to the florula) and ** (new-found localities). The specimens mentioned below are kept in the Herbarium of the Yokosuka City Museum. The accuracies and collectors are shown in the round brackets. The numbers of items are continued from the previous article.

Part A: The following plants have been newly found in the area of the Miura peninsula.

- 50** *Dryopteris gymnohylla* (BAK.) C. CHR. (Taura, Yokosuka city; Shōichi Saito)
 51 *Brachypodium sylvaticum* (HUDS.) P. BEAUVOIS (Mabori, Yokosuka city; Shigeru Ohtani)
 52** *Lolium perenne* LINNAEUS (Cape Hakozaki, Yokosuka city; Shigeru Ohtani)
 53 *Lolium subulatum* VISIANI (Hakkei-bara seashore, Minami-shitaura, Miura city; Shigeru Ohtani)
 54 *Panicum dichotomiflorum* MICHAUX (Kinugasa, Yokosuka city; Shigeru Ohtani)
 55 *Phalaris canariensis* LINNAEUS (Iijima seashore, Kamakura city; Mihoko Mase)
 56** *Sorghum halepense* PERSOON (Kurihama, Yokosuka city; Sukiko Tanaka)
 57** *Zizania latifolia* TURCZ. (Kurihama, Yokosuka city; Shigeru Ohtani)
 58** *Carex ischnostachya* STEUDEL (Takeyama, Yokosuka city; Sukiko Tanaka)
 59* *Eleocharis attenuata* (FRANCH. et SAVAT.) PALLA (Kurihama, Yokosuka city; Sukiko Tanaka)

- 60 *Fimbristylis longispica* STEUDEL (Hikihashi, Miura city; Kiyoshi Iwaki)
- 61** *Scirpus planiculmis* FR. SCHM. (Ohnori, Miura city; Shigeru Ohtani)
- 62** *Epipactis Thunbergii* A. GRAY (Kurihama, Yokosuka city; Shigeru Ohtani)
- This species grows usually in wet places, but this locality is a sunny slope near the seashore.
- 63* *Arabis gemmifera* (MATSM.) MAKINO (Abekura, Yokosuka city; Shigeru Ohtani)
- 64 *Lepidium Draba* LINNAEUS (Nagahama, Miura city; Shigeru Ohtani)
- 65** *Wasabia japonica* (MIQ.) MATSUMURA (Umanose-dani, south foot of Ohkusu-yama, Yokosuka city; Shigeru Ohtani)
- 67** *Sedum lineare* THUNBERG (Kinugasa, Yokosuka city; Sukiko Tanaka)
- 68* *Malus Sieboldii* (REGEL) REHDER var. *Zumi* (MATSUM.) ASAMI (Mabori, Yokosuka city; Shigeru Ohtani) This is very rare in Kanagawa prefecture. A blooming tree was found in some bush near the Garden of Conservation of the Yokosuka City Museum which was then transplanted in the Garden.
- 69** *Melilotus indica* (LINNAEUS) ALL. (Bishamon beach, Minami-shitaura, Miura city; Shigeru Ohtani)
- 70* *Malva rotundifolia* (Kurihama, Yokosuka city; Shigeru Ohtani)
- 71 *Apium graveolens* LINNAEUS (Sakamoto, Yokosuka city; Sukiko Tanaka) Escaped from cultivation.
- 72** *Heracleum lanatum* MICHAUX subsp. *Moellendorffii* (HANCE) HARA (Toono-tsuji, Ohmachi, Kamakura city; Mihoko Mase)
- 73 *Ajuga yezoensis* MAXIMOWICZ var. *tsukubana* NAKAI (Mabori, Yokosuka city; Shigeru Ohtani)
- 74** *Salvia nipponica* MIQUEL (Futako-dani, Hayama; Seiji Nishiyama)
- 75 *Scutellaria pekinensis* MAXIMOWICZ var. *transitra* (MAKINO) HARA (Kurihama, Yokosuka city; Sukiko Tanaka)
- 76 *Veronica anagallis-aquatica* LINNAEUS (Shibazaki, Hayama-machi; Mihoko Mase)
- 77** *Mitchella undulata* SIEBOLD et ZUCCARINI (Mabori, Yokosuka city; Shigeru Ohtani)
- There are large communities in the evergreen woods of the Garden of Conservation of the Yokosuka City Museum. The author observed only a type of long-stamen flower, but has not yet found their fruits.

Part B: The following plants have been newly found in the Miura peninsula and should be added to the florula.

- 78 *Ophioglossum petiolatum* HOOKER (Kaizoo-ji, Ohgigayatsu, Kamakura city; Mihoko Mase, and Myohoji, Nagoe, Kamakura city; Koichi Terajima)
- 79 *Lunathyrium unifurcatum* (BAK.) KURATA var. *Okuboanum* (MAKINO) KURATA (Taura, Yokosuka city; Shoichi Saito)
- 80 *Leptogramma mollissima* (FISCHER ex KUNZE) CHING var. *pilosissima* (H. ITO) KURATA (Taura, Yokosuka city; Shoichi Saito)
- 81 *Polygonum Convolvulus* LINNAEUS (Ohmachi, Kamakura city; Mihoko Mase)
- 82** *Euxolus deflexus* RAFINESQUE (Kurihama, Yokosuka city; Shigeru Ohtani) a naturalized plant.

- 83 *Ipomoea pes-caprae* (LINNAEUS) SWEET subsp. *brasiliensis* (LINNAEUS) OOSTSTR. (Arasaki beach, Yokosuka city; Mihoko Mase)
- 84 *Messerschmidia sibirica* LINNAEUS (Bishamon, Minami-shitaura, Miura city; Shigeru Ohtani) Leaves broad obovate, 7.5—9.7 cm. long, 4.1—4.15.0 cm wide, emarginate, rotundate or truncate at the apex.

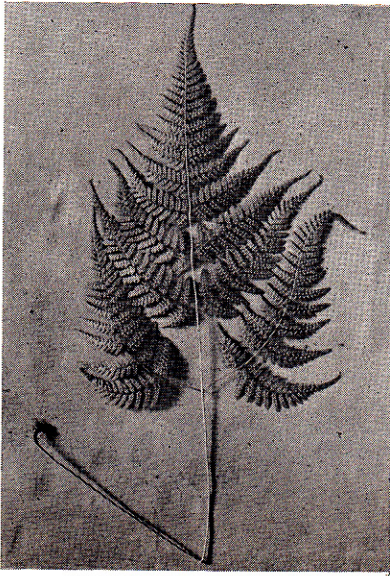


Fig. 1. サクライカグマ
横須賀市, 田浦産
Dryopteris gymnophylla in Taura,
Yokosuka, Kanagawa-pref.



Fig. 2. カキラン
横須賀市, 久里浜, 千駄ヶ崎産
Epipactis Thunbergii in Sendagasaki,
Kurihama, Yokosuka, Kanagawa-pref.

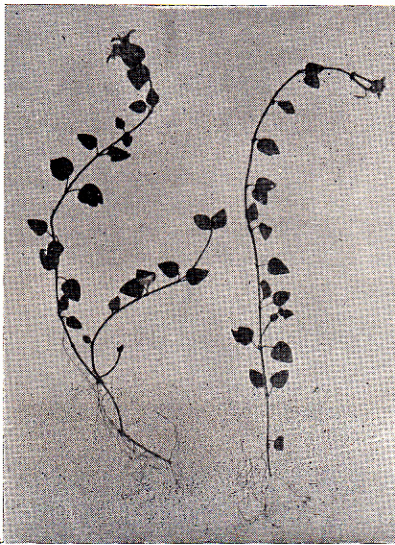


Fig. 3. ツルアリドウシ 横須賀市, 馬堀
Mitchella undulata in Mabori, Yoko-
suka, Kanagawa-pref.



Fig. 4. ツルアリドウシの花部
Mitchella undulata,; enlarged flowering
tip.



Fig. 5. ハナウドの群落 鎌倉市, 大町, 塔の辻産
(間瀬美保子, 撮)
Plant community of *Heracleum lanatum* subsp.
Moellendorffii in Toonotsuji, Ohmachi, Kama-
kura, Kanagawa-pref.



Fig. 6. オオカワヂシャの花枝
葉山町, 芝崎産 (間瀬美保子, 撮)
Flowering and Fruiting Branch of
Veronica anagallis-aquatica, in
Shibazaki, Hayama, Kanagawa-pref.



Fig. 7. オオズミ 横須賀市, 馬堀産
Malus Sieboldii var. *Zumi* in Mahori,
Yokosuka, Kanagawa-pref.



Fig. 8. ハクサンハタザオ 横須賀市, 阿部倉産
Arabis gemmifera in Abekura, Yokosuka,
Kanagawa-pref.